

瑞雲

ずいぶん

平成23年4月10日発行
瑞雲：めでたいしるしの雲の意直方鉄工青年会
前年度第46代会長 石橋和彦

3月11日に発生いたしました東日本大震災により、被災されました方々に対し、謹んで心よりお見舞い申し上げます。今なお余震と言うにはあまりにも大きな地震が頻発し、また福島第一原発の今後の行方も余談の許さない状況が続く中、自衛隊の投入など国難に対する最高レベルの手段を講じているはずであるにも関わらず、一向に事態が鎮静化しない状況を見るにつけ、人間の持てる力の限界をまざまざと見せ付けられる思いです。被災されたみなさんへ日本はもとより世界各国から寄せられるであろう支援が、滞りなく行き届き、これ以上の二次的な災害が広がらぬ様に、一刻も早い原発事故の収束を祈るばかりです。

微力でも直方鉄工青年会として出来ることを早急に実施すべく動いているところです。

あらためまして平成22年直方鉄工青年会第46代会長を務めさせていただきました石橋和彦です。一年間多くの皆様に支えられ、助言をいただき、なんとかここまで歩んでこられましたこと、まずは厚く御礼申し上げます。

アイスランド火山噴火により、会長不在による4月通常総会懇親会に始まった平成22年度も、8月を超えたころから加速度的にそのスピードを早め、あっという間にこの3月を迎えたというのが実感です。アイスランド火山の噴火が遠く離れた日本の直方鉄工青年会の会長不在による4月通常総会の欠席に繋がるといふこと、一見なんの関連もなさそうなことが、突如として自らの身に振りかかる可能性があるという気づき、そしてそのような不測の事態に対する自らの、そして会としての対応力を試された出来事でした。

来賓をはじめとする皆様には多大なるご迷惑をおかけいたしました。誤解を恐れずに申し上げるならば、お陰さまで本当に得難い勉強をさせて頂く機会を頂いたとあらためてご報告させて頂きたく存じます。

22年度最後の事業であり、士気も最高潮で準備を続けてきた3月例会事業「卒業生をおくる夕べ」は、そのままに前日に東日本大震災が発生し、涙をのんで自粛・延期という形をとらせて頂きました。そのような「当たり前」の判断ができたのは、卒業生のみなさん自身の非常に客観的で冷静な意見であり、運営側も無念さをこらえ、受け入れ

ながらも善後策を素早く講じられたのは4月の経験があったからと言えるでしょう。その後様々な公的・私的催事の自粛が報道されるのを目の当たりにし、直方鉄工青年会のとった行動に間違いはなかったのだと確信しました。



先月の2月通常総会では、私の4月総会懇親会での挨拶の代読を担当した花田勇平君が第47代会長として承認され、いよいよ私自身今期会長としての任期の終わりを実感しております。寂しい気持ちはあるものの、花田47代会長の自らの言葉で会を語る本当に一生懸命な姿を目の当たりにし、これからの花田会長時代の一年が充実したものになる様、微力ながら裏方としてやるべき事にきちんと取り組んでいかなければとの思いを新たにすところ。そしてここ数年これまでの会の体制を固める方向であったスローガンを、一気に外向きなベクトルへ舵を切った事は、我々直方鉄工青年会の新たな時代への突入を予感させ、そして訪れるであろうあらたなる困難さをも、ものともしない強い意志を感じさせるものでした。

一年間を振り返り、それぞれの事業或いは事業外にて、多数の会員のみなさん或いはそのご家族、そして特別会員の皆様と共に過ごせた時間、そして役員会における監事のみなさんの示唆に満ちた指摘事項をはじめ、三役会での熱い議論、役員のみなさんの協力、そしてそれこそ何度となく自らの至らなさに恥ずかしい思いをしたこと、それらすべてが青年会生活における宝物であり、思い出です。

私自身、一年間拙い運営に終始致しましたが、皆様には絶大なる御支援・御指導賜りましたこと重ねて御礼申し上げますとともに、これからの一年間もどうぞ直方鉄工青年会への倍日の御指導・御馳達、そして御支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。本当に一年間有難うございました。

今年度、卒業を迎える事となりました。飯野泰造先輩のご紹介で青年会に入会させて頂き、30周年時に村井昇先輩から役職を頂いて以来、諸先輩方のご指導を頂いたからこそ今日まで会社経営と青年会活動に頑張ってきたのではないかと感じております。青年会活動を振り返って、組合100周年に合わせて行ったものづくり事業・ソーラーカーレース出場は特に思い出深い事業です。会員皆で協力してソーラーカーを製作しレースに出場・完走した時の達成感。今思えばよくもあれだけ仕事そっちのけで頑張れたものだなと。こんな素晴らしい青年会から卒業しなければならず非常に寂しく感じておりますが、今後も出来る限り青年会行事に参加して諸先輩及び後輩から刺激を得、みずからを叱咤して会社経営に頑張っていきたいと思っております。長い間ありがとうございました。

矢野清一郎君



この度、有難くも無事に卒業させていただき事となりました平城則文です。入会当事まだ幼かった二人の息子も大学、高校生に成長し、長い時間の経過は実感しておりますが、青年会に於いては最後まで中心となって活躍する事があまり出来ませんでした。

平城則文君



しかしこんな私でもこの期に及べば寂しい気持ちで居ります。そんな気持ちにして頂いた青年会での経験や出会い、又、お世話になった先輩方や後輩の皆様にお礼を申し上げると共に、今後もお付き合いの程宜しくお願い致します。有難うございました。

新たな鉄男のご紹介

NEW FACE!

2010年度より新規入会させて頂きました、九州鑄鉄管株式会社の山口高広と申します。私は2006年に1度入会しておりましたが、転勤の為1年もたたずに退会。その後、約3年半の東京勤務を経て、2010年に転勤にて直方に帰ってきたことを機に再度改めて、鉄工青年会にお世話になることとなりました。今年で42歳と青年会入会にしては高齢で、残された期間が短いですが将来に繋がる何かを数多く習得したいと考えてます。皆さんに早く溶け込んで、少しでもお役に立てるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。

九州鑄鉄管株式会社
山口高広

日新交易株式会社の吉井勇と申します。

日新交易株式会社
吉井勇

今年二月に直方鉄工青年会へ入会させて頂いて以降、諸先輩方との交流により様々な観点にて勉強させて頂いております。

このような機会に恵まれたことで、より成長していきたいと考えております。皆様、ご指導の程宜しくお願い致します。



直方鉄工青年会

福岡県直方市大字植木1245-2 (ADOX福岡/直方鉄工協同組合内)

発行人 直方鉄工青年会 厚生・広報委員会

編集責任者 委員長 石橋正彦

印刷 直方鉄工青年会 厚生・広報委員会